


エコアクション21  
環境活動レポート

平成28年度

運用期間 平成28年4月～平成29年3月



新たなる時代の“より豊かな環境造り”を目指して

 株式会社 志道工務店  
Shiji

平成29年5月31日 作成

# 目 次

1. 環境方針	P - 1
2. 組織の概要(事業概要)	P - 2
3. 対象範囲(組織図及び認証・登録範囲)	P - 3
4. 環境目標	P - 4・5
5. 主要な環境活動計画の内容	P - 6~8
6. 環境目標に対する実績	P - 9・10
7. 環境活動の取組結果の評価	P - 11~14
8. 次年度の取組内容	P - 14
9. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	P - 14
10. 代表者による全体評価と見直しの結果	P - 15
11. 産業廃棄物収集運搬業に関する情報公開	P - 16~18
12. 資料 環境保全活動状況(写真)	P - 19
13. 資料 最近5ヶ年の動向(グラフ)	P - 20・21

# 1. 環境方針

## 【基本理念】

弊社は、経営の基本方針として社章に示されている三つのS(Safety、Smile、Strong)を基本として、お客様に誠実に仕えることにより企業の発展を期するとともに、下記の行動方針を定め、「もったいない」の精神の下、“地球にやさしい環境作り”に貢献するように努めます。

## 【行動方針】

1. 環境経営システムを構築し、下記の重点事項について環境目標を設定し、年度毎に見直し、効果的な取組を行います。
  - (1) 二酸化炭素の排出量削減
  - (2) 節水
  - (3) 産業廃棄物の排出量削減
  - (4) グリーン購入の推進
  - (5) 自然エネルギーの利用、普及
2. 環境関連法を含めた弊社の諸活動に関連する法令及び、協定等を遵守するとともに、環境管理レベルの向上を図ります。
3. 行政機関・公益団体等の環境保全施策に協力するとともに、地域社会における環境保全活動に積極的に参加し、環境に優しい街作りに貢献します。
4. 環境教育・訓練、及び社内広報活動等を行い、全ての従業員に環境方針を徹底することにより、環境保全に関する意識を高め、社内における環境意識の向上を図ります。

平成25年5月29日  
株式会社志道工務店  
代表取締役会長  
志道長生  
代表取締役社長  
藤井武樹

平成19年 1月25日 制定

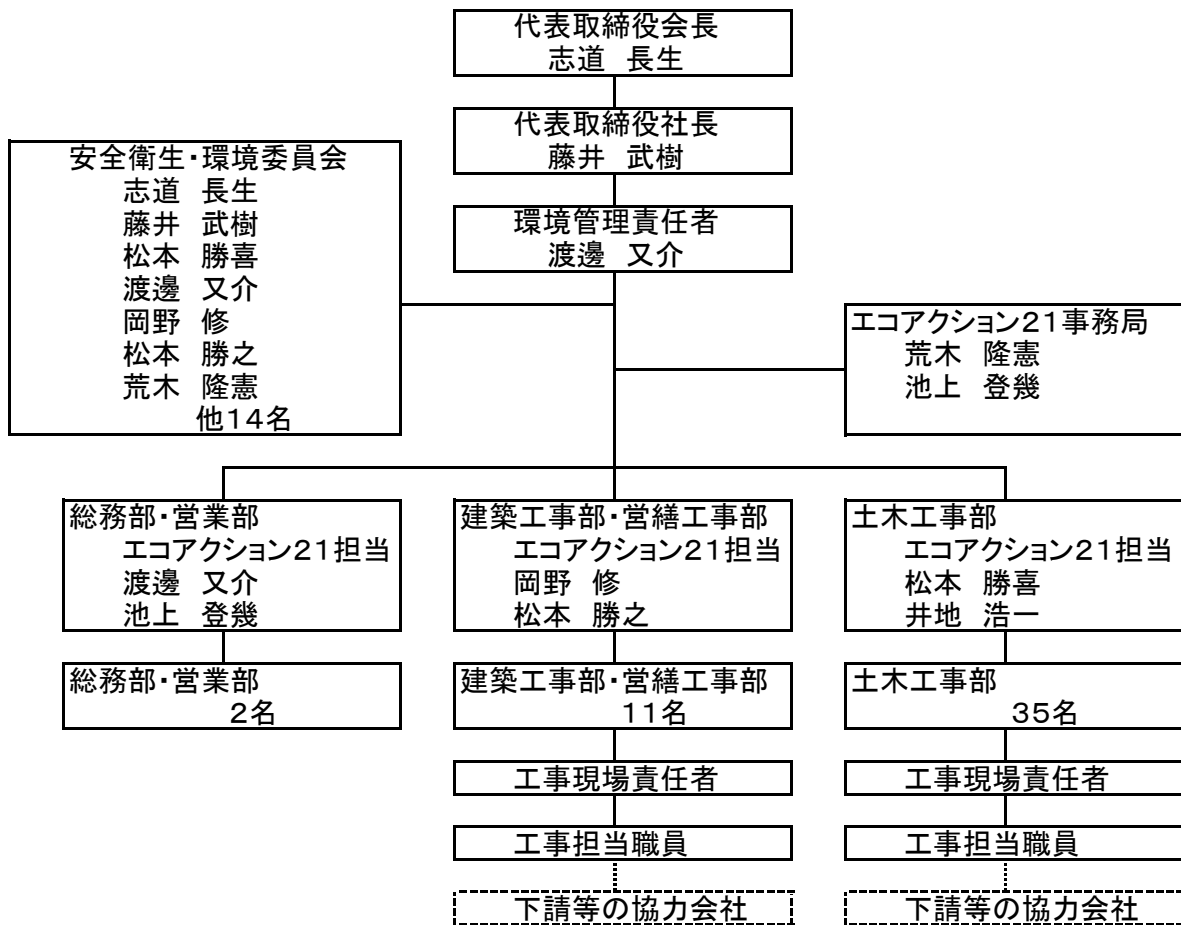
平成22年12月27日 改定

平成25年 5月29日 改定

## 2. 組織の概要(事業概要)

事業所名	株式会社志道工務店				
代表者名	藤井 武樹 (代表取締役)				
所在地	〒805-0032 北九州市八幡東区松尾町22-10				
創立	昭和25年7月				
資本金	4,000万円				
従業員数	57名 (平成29年3月31日現在)				
環境管理責任者	渡邊 又介 (取締役総務部長)				
連絡担当者	荒木 隆憲 (安全衛生・環境担当次長)				
連絡先	TEL 093-651-4165 FAX 093-651-4166				
	E-mail <a href="mailto:info@shiji.co.jp">info@shiji.co.jp</a>				
対象範囲	総合建設業、産業廃棄物収集運搬、ピット・配管内浚渫洗浄作業				
事業の内容	<p>総合建設業</p> <p>土木工事業、建築工事業、大工工事業、左官工事業、とび・土工工事業、石工事業、屋根工事業、タイル・れんが・ブロック工事業、鋼構造物工事業、鉄筋工事業、舗装工事業、しゅんせつ工事業、板金工事業、ガラス工事業、塗装工事業、防水工事業、内装仕上工事業、建具工事業、水道施設工事業</p> <p>産業廃棄物収集運搬業</p> <p>産業廃棄物収集運搬業、ピット・配管内浚渫洗浄作業</p>				
事業規模	本社・建築工事部・営繕工事部				
		単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度
売上高	百万円		1,576	1,311	989
人員	人		22	20	22
床面積	m <sup>2</sup>		197	197	197
	土木工事部				
		単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度
売上高	百万円		419	575	599
人員	人		29	37	36
床面積	m <sup>2</sup>		271	271	271
当社の事業年度	4月1日から翌年3月31日				
認証・登録範囲	全組織・全活動				

### 3. 対象範囲（組織図及び認証・登録範囲）



役割分担表

氏名	所属	役割・責任・権限
藤井 武樹	代表取締役社長	全体統括、環境方針の決定、環境への取組を実施するための資源の準備、全体の評価と見直し
渡邊 又介	環境管理責任者	全体の把握、環境管理責任者、環境経営システムを構築し、その運用状況を社長へ報告
	安全衛生・環境委員会	安全衛生環境委員会を定期的に開催し、環境目標の達成状況活動計画の実施状況等の審議
	エコアクション21事務局	エコアクション21に関する文書及び記録等の作成、維持、管理
荒木 隆憲	安全衛生・環境担当統括次長	二酸化炭素及び水等の消費量の管理、廃棄物の排出量管理、リサイクル・環境優良商品の購入促進
岡野 修	営繕工事部長	営繕工事部の統括、エコアクション21について、部署内の推進管理
松本 勝喜	土木工事部長	土木工事部の統括、エコアクション21について、部署内の推進、管理
松本 勝之	建築工事部長	建築工事部の統括、エコアクション21について、部署内の推進、管理
渡邊 又介	総務部長	総務部の統括、エコアクション21について、総務部及び本社内の推進、管理

## 4. 環境目標

### ① 本社・建築工事事部・営繕工事事部

目標項目	単位	平成21年度 (基準年度)	平成28年度 目標	平成29年度 目標	平成30年度 目標
二酸化炭素 排出量削減	kg-CO <sub>2</sub> /人	48.6	▲5.0% 46.2	▲6.0% 45.7	▲7.0% 45.2
	電力使用量 kwh/人	113.1	▲5.0% 107.4	▲6.0% 106.3	▲7.0% 105.2
	都市ガス 使用量 m <sup>3</sup> /人	0.417	▲5.0% 0.396	▲6.0% 0.392	▲7.0% 0.388
	ガソリン 使用量(燃費) km/L	12.32	5.0% 12.94	5.0% 13.06	7.0% 13.18
節水	m <sup>3</sup> /人	1.046	▲5.0% 0.994	▲6.0% 0.983	▲7.0% 0.973
産業廃棄物の 排出量削減	t/人	13.256	▲5.0% 12.593	▲6.0% 12.461	▲7.0% 12.328
グリーン購入	購入件数	115	5.0% 120.8	6.0% 121.9	7.0% 123.1
自然エネルギーの 利用、普及	活動状況	自社導入	営業展開	営業展開	営業展開
環境保全活動 参加	参加数	0	12	12	12
環境教育・訓練 実施	実施数	0	1	1	1

- ※ 当社の総合建設業部門において発生する環境負荷について使用する電力、水は施主からの提供であるか、又は下請工事であるため環境負荷は集計できていない。
- ※ 使用車両のガソリン使用量については、本社に含めて集計している。
- ※ 工事部の工事は、本社を拠点としており、工事は協力会社への外注であり、本社と現場事務所を分けない。
- ※ 平成25年度より、「産業廃棄物の排出量削減」項目について、新しい目標を設定する。平成23年度及び平成24年度の産業廃棄物排出量の平均値を社員1人(月)当たりで割った値を環境目標とし、新たに取り組む。
- ※ 平成29年度より、組織改正により、「本社・工事部」を、「本社・建築工事事部・営繕工事事部」と改めた。

② 土木工事部

目標項目	単位	平成23年度 (基準年度)	平成28年度 目標	平成29年度 目標	平成30年度 目標	
二酸化炭素 排出量削減	Kg-CO <sub>2</sub> / 延人	32.695	▲2.0% 32.041	▲2.0% 32.041	▲2.0% 32.041	
	電力使用量	kWh / 延人	0.317	▲2.0% 0.310	▲2.0% 0.310	▲2.0% 0.310
	LPGガス 使用量	m <sup>3</sup> / 延人	0.208	▲2.0% 0.203	▲2.0% 0.203	▲2.0% 0.203
	ガソリン 使用量	L / 延人	0.664	▲2.0% 0.650	▲2.0% 0.650	▲2.0% 0.650
	軽油 使用量	L / 延人	11.233	▲2.0% 11.008	▲2.0% 11.008	▲2.0% 11.008
	灯油 使用量	L / 延人	0.103	▲2.0% 0.100	▲2.0% 0.100	▲2.0% 0.100
節水	m <sup>3</sup>	2754.822	▲2.0% 2699.725	▲2.0% 2699.725	▲2.0% 2699.725	
産業廃棄物の 排出量削減	t	0.962	▲2.0% 0.942	▲2.0% 0.942	▲2.0% 0.942	

※ 平成24年度、構内作業部において新たな環境目標を設定する。  
目標値は、構内事務所新築後の平成22年10月～平成23年9月までの使用量等から2%削減した  
数値としていた。

※ 平成28年4月、構内作業部は、名称を土木工事部に変更した。

※ 「二酸化炭素の排出量」及び構成する「各使用量」の単位は、延人当たりで計算する。  
また、「節水」の単位はm<sup>3</sup>、「産業廃棄物の排出量」の単位はt当たりで計算する。  
土木工事部から出る産業廃棄物は、主に廃プラスチックホースのため、この購入量削減を  
目標とする。

※ 電気の二酸化炭素排出量係数は、九州電力の平成21年度 0.374kg-CO<sub>2</sub>/kWhを用いた。

## 5. 主要な環境活動計画の内容

### ① 本社・建築工事事部・営繕工事事部

1. 二酸化炭素排出量の削減 (活動目標)5%削減 (責任者)渡邊 又介  
(活動個別目標)5%削減
  - (1) 電気使用量の削減
    - ・ エアコン設定温度を決め実行する。  
→ シールにより設定温度を表示する。
    - ・ 不要電力の消費を抑制する。  
→ 退社時に、プリンターの電源を切る。  
→ パソコン不使用时はスリープ状態にする。
    - ・ 次期の削減量を検討する。
  - (2) 都市ガス使用量の削減 (活動個別目標)5%削減
    - ・ ガス機器を点検し清掃する。
    - ・ 給湯器を効率的に利用する。
    - ・ 次期の削減量を検討する。
  - (3) ガソリン使用量の削減 (活動個別目標)燃費5%向上
    - ・ 始動時の長時間アイドリングは止める。
    - ・ 適正な速度で運転する。  
→ 法定速度を遵守する。
    - ・ 急発進、急停車を禁止する。
    - ・ 次期の削減量を検討する。
2. 節水 (活動目標)5%削減 (責任者)渡邊 又介
  - (1) 節水活動
    - ・ 節水活動を推進する。  
→ 適正な洗車及び洗車時間を短縮する。
    - ・ 次期の削減量を検討する。
3. 産業廃棄物の搬出量削減 (活動目標)5%削減 (責任者)荒木 隆憲
  - (1) 建設廃材、一般廃棄物の削減
    - ・ 産廃のマニフェストを適正に発行し、管理する。
    - ・ 分別排出を徹底する。
    - ・ 建設資材廃棄物の再資源化に協力する。
    - ・ 再資源化された資材を利用する。  
→ 高炉セメントを購入する。
    - ・ 次期の削減量を検討する。
4. グリーン購入適合商品購入増(活動目標)5%増加 (責任者)渡邊 又介
  - (1) 環境にやさしい商品の購入を増やす。
    - ・ グリーン購入対象商品を把握する。
    - ・ グリーン購入対象商品を購入する。
    - ・ 次期の削減量を検討する。
5. 自然エネルギーの利用、普及(活動目標)営業展開 (責任者)岡野 修
  - (1) 環境にやさしい商品の普及
    - ・ 商品の実地利用及び検証を行う。
    - ・ 商品を宣伝し、営業活動を行う。
    - ・ 次期の課題を検討する。



6. 環境保全活動への参加 (活動目標)12回／年以上参加 (責任者)渡邊 又介

(1) 環境保全活動への参加

- ・ 地元、公益機関等が呼びかける地域清掃活動へ参加する。
- ・ 月に1度、自主的な会社周辺等の清掃活動を継続する。
- ・ 次期の課題を検討する。

7. 環境教育・訓練の実施 (活動目標)1回／年以上実施 (責任者)渡邊 又介

(1) 環境教育実施計画を立て、年1回実施する。

- ・ 社員に向け環境に関する環境教育を実施する。
- ・ 次期の課題を検討する。

② 土木工事部

1. 二酸化炭素排出量の削減 (活動目標)2%削減

(責任者) 松本 勝喜

(1) 電気使用量の削減

(活動個別目標)2%削減

- ・ エアコンの設定温度を決め、実行する。
  - シールにより設定温度を表示する。
- ・ 不要電力の消費を抑制する。(不要な電気の使用禁止)
  - 電気器具の電源は、こまめに切る。
  - 冷暖房中、各部屋の出入口を開放しないように徹底する。
- ・ 省エネタイプエアコンを導入する。
- ・ 次期の削減量を検討する。

(2) LPGガス使用量の削減

(活動個別目標)2%削減

- ・ ガス機器を点検、清掃する。
- ・ 浴槽の水量を検討する。
- ・ 温度の設定を検討する。
- ・ 次期の削減量を検討する。

(3) ガソリン使用量の削減

(活動個別目標)2%削減

- ・ 始動時のアイドリングを止める。
- ・ エアコンは控えめに利用する。
  - 必要な時のみ利用する。
- ・ タイヤの空気圧をこまめに点検する。
- ・ 次期の削減量を検討する。

(4) 軽油使用量の削減

(活動個別目標)2%削減

- ・ 始動時のアイドリングを止める。
- ・ エアコンは控えめに利用する。
  - 必要な時のみ利用する。
- ・ タイヤの空気圧をこまめに点検する。
- ・ 次期の削減量を検討する。

(5) 灯油使用量の削減

(活動個別目標)2%削減

- ・ 省エネタイプエアコンを導入することで、灯油使用量を削減する。
- ・ 次期の削減量を検討する。

2. 節水

(活動目標)2%削減

(責任者) 井地 浩一

(1) 節水活動

- ・ 節水活動を推進する。
  - 浴槽の水量を検討する。
- ・ 次期の削減量を検討する。

3. 産業廃棄物の排出量の削減（活動目標）2%削減

（責任者）岩崎 孝紀

(1) 廃プラスチックの廃棄量削減

- ・ 購入量を削減する。
- ・ 計画的に購入する。
- ・ 利用計画に伴い補修等により延命化を図る。
- ・ 次期の削減量を検討する。

【 環境事故への対応 演習の様子 】



平成28年8月 トラックから油が漏れた想定による演習の様子

## 6. 環境目標に対する実績

・平成28年4月～平成29年3月の全社の総排出量は以下の通りであった。

### 会社の総排出量実績(実数)

目標項目	単位	平成28年度実績
二酸化炭素排出量(全社)	kg-CO <sub>2</sub>	345,044.5
(本社・建築工事事部・ 営繕工事事部)	kg-CO <sub>2</sub>	5,474.5
(土木工事事部)	kg-CO <sub>2</sub>	339,570.0
節水(全社)	m <sup>3</sup>	3,458.1
(本社・建築工事事部・ 営繕工事事部)	m <sup>3</sup>	146.0
(土木工事事部)	m <sup>3</sup>	3,312.1
産業廃棄物排出量(全社)	t	7,311.3
(本社・建築工事事部・ 営繕工事事部)	t	7,307.1
(土木工事事部)	t	4.2

### ① 本社・建築工事事部・営繕工事事部

目標項目	単位	平成21年度 (基準年度)	平成28年度 目標	平成28年度	目標
				実績	の達成率
二酸化炭素 排出量削減	kg-CO <sub>2</sub> /人	48.6	▲5.0% 46.2	20.7	達成 ▲55.1%
	電力使用量 kwh/人	113.1	▲5.0% 107.45	41.7	達成 ▲61.1%
	都市ガス 使用量 m <sup>3</sup> /人	0.417	▲5.0% 0.396	0.242	達成 ▲38.8%
	ガソリン 使用量 km/L	12.32	5.0% 12.94	13.98	達成 8.0%
節水	m <sup>3</sup> /人	1.046	▲5.0% 0.994	0.576	達成 ▲42.0%
産業廃棄物の 排出量削減	t/人	13.256	▲5.0% 12.726	4.955	未達成 ▲61.0%
グリーン購入	購入件数	115	5.0% 120.8	485.0	達成 301.5%
自然エネルギーの 利用・普及	活動状況	自社導入	営業展開	営業展開	達成 実施できた
環境保全活動 参加	参加数	0	12	12	達成 100.0%
環境教育・訓練 実施	実施数	0	1	2	達成 200.0%

※ 電気の二酸化炭素排出量係数は、九州電力の21年度0.374を用いた。

② 土木工事部

目標項目	単位	平成23年度 (基準年度)	平成28年度 目標	平成28年度 実績	目標 の達成率
二酸化炭素 排出量削減	kg-CO <sub>2</sub> / 延人	32.695	▲2.0% 32.041	32.909	未達成 2.71 %
	電力使用量 kWh /延人	0.317	▲2.0% 0.310	0.212	達成 ▲ 31.61 %
	LPGガス 使用量 m <sup>3</sup> /延人	0.208	▲2.0% 0.203	0.182	達成 ▲ 10.34 %
	ガソリン 使用量 L /延人	0.664	▲2.0% 0.650	1.259	未達成 93.69 %
	軽油 使用量 L /延人	11.233	▲2.0% 11.008	10.963	達成 ▲ 0.41 %
	灯油 使用量 L /延人	0.103	▲2.0% 0.100	0.000	達成 ▲ 100.00 %
節水	m <sup>3</sup>	2,754.822	▲2.0% 2,699.725	3,312.078	未達成 22.68 %
産業廃棄物の 排出量削減	t	0.962	▲2.0% 0.942	0.627	達成 ▲ 33.43 %

※ 平成24年度、構内作業部において新たな環境目標を設定する。  
目標値は、構内事務所新築後の平成22年10月～平成23年9月までの使用量等から2%削減した  
数値としていた。

※ 平成28年4月、構内作業部は、名称を土木工事部に変更した。

※ 「二酸化炭素の排出量」及び構成する「各使用量」の単位は、延人当たりで計算する。  
また、「節水」の単位はm<sup>3</sup>、「産業廃棄物の排出量」の単位はt当たりで計算する。  
土木工事部から出る産業廃棄物は、主に廃プラスチックホースのため、この購入量削減を  
目標とする。

※ 灯油使用量については、省エネタイプのエアコンを導入したことでストーブの使用をしなかった。

※ 電気の二酸化炭素排出量係数は、九州電力の平成21年度 0.374kg-CO<sub>2</sub>/kWhを用いた。

## 7. 環境活動の取組結果の評価

### ① 本社・建築工事事部・営繕工事事部

#### 1. 二酸化炭素排出量の削減

- ・ 二酸化炭素の排出量の削減は、20.7Kg-CO<sub>2</sub>/人で、環境目標値より55.1%削減でき、環境目標を達成した。
- ・ 本社電灯のほとんどをLED照明にし、電力消費量を削減した。(継続)
- ・ 太陽光発電設備による再生可能エネルギーによる発電も、天候がよく昨年以上の発電があり、二酸化炭素を発生させる電力の削減に貢献した。(継続)
- ・ 都市ガスの使用量については、給湯器の効率的な使用、ガスコンロの点検、清掃を行い、環境目標を38.8%クリアし、環境目標を達成した。
- ・ ガソリンの使用量についてはエコドライブ、適正な整備を心がけ、日常点検を確実にを行った事により、燃費は8.0%向上した。

#### (1) 電気使用量の削減

- ・ LEDによる照明で、節電した。
- ・ 太陽光発電により、消費電力を減らした。
- ・ エアコン設定温度を決め実行した。
  - シールにより設定温度を表示した。
- ・ 不要電力の消費を抑制(不要な電気使用を禁止)した。
  - プリンター、コピー機、FAXの複合機は15分使わないと節電モードになるように設定した。
  - パソコンは不使用時、スリープ状態になるように設定した。
- ・ 次期の削減量を検討した。

#### (2) 都市ガス使用量の削減

- ・ ガス機器を点検し、清掃した。
- ・ 給湯器を効率的に利用した。
  - ヤカンでお湯が沸いたら、すぐ消火した。
- ・ 次期の削減量を検討した。

#### (3) ガソリン使用量の削減

- ・ 始動時のアイドリングは止めた。
- ・ 適正な速度で運転した。
  - 法定速度を遵守した。
- ・ 急発進、急停車の禁止した。
- ・ 次期の削減量を検討した。

#### 2. 節水

- ・ 全社員による節水活動が推進され、特に掛け流しによる洗車を最低限とし、給湯室での水も効率よく実施した結果、水の使用量(m<sup>3</sup>/人)は環境目標を大幅に上回り、環境目標に対して42.0%削減した。

#### (1) 節水活動

- ・ 節水活動を推進した。
  - 掛け流しによる洗車を最低限とし、バケツを利用して洗車した。
- ・ 次期の削減量を検討した。

### 3. 産業廃棄物の搬出量を削減

- ・ 産業廃棄物を減らすよう分別排出を徹底し、建設廃材を再資源化できるように配慮した試みを続け、本年度は4.955 t/人となり、環境目標を達成できた。また、環境関連法を遵守した産業廃棄物の処理を継続した。

#### (1) 建設廃材、一般廃棄物の削減

- ・ 分別排出を徹底した。
- ・ 建設資材廃棄物の再資源化に協力した。
- ・ マニユフェストを利用し、適正に処分した。
- ・ 再資源化された資材を購入した。
- ・ 次期の削減量を検討した。

### 4. グリーン購入適合商品の購入増加

- ・ グリーン購入については、大幅に環境目標を達成した。対象商品が多くなり、かつ値段も下がってきていることが、大幅に環境目標を達成した原因ではないか、と考える。
- ・ 今後の取組としては、グリーン購入適合商品で、社内で評判が良かった物について社員に水平展開して、購入量について、増やしていきたい。

#### (1) 環境にやさしい商品の購入増加

- ・ グリーン購入対象商品を把握した。
- ・ グリーン購入対象商品を選んで購入した。
- ・ 次期の課題を検討した。

### 5. 自然エネルギーの利用、普及

- ・ 地中熱の利用システムであるジオパワー・システムを平成22年10月より、当社の構内作業部の事務所にて採用し、運用をはじめた。
- ・ 現在その実地検証を進め、有効性を自社設備にて確認した。
- ・ 太陽光発電について、設備を2倍に増強し、使用電力の自然エネルギー化に努めた。
- ・ 当社の営業先である設計事務所へ、太陽光発電のパンフレットを配り、営業に努めた。また、興味を持った会社へは、自社の発電の様子を見せ、営業を行った。
- ・ 残念ながら、ジオパワー・システムについては、成果が実らなかったため、平成27年2月を以て、代理店を辞めた。今後は、太陽光発電設備の普及に尽力する。

### 6. 環境保全活動への参加

- ・ 会社周辺の公園や道路の清掃を、月1回安全衛生・環境委員会の後に、自主ボランティア活動として実施している。(雨天中止)
- ・ 地元自治体、公益団体、ボランティア団体等から参加要請されていた地域清掃活動に積極的に参加している。

### 7. 環境教育・訓練の実施

- ・ エコアクション21へ参加する事の意義、今年求められる九州のエネルギー供給状況、及び当社の環境目標へのアプローチを再確認し、エコドライブや社員の環境意識向上に資する教育を行った。また、交通事故により燃料タンクからガソリンが漏れた事を想定して、環境事故対応訓練を実施した。吸着マットの常備など、環境事故に備えた体制も整備した。(平成28年8月30日実施)

## ② 土木工事事部

### 1. 二酸化炭素排出量の削減

- ・ 電気については、平成27年8月に省エネタイプのアコンを導入し温度設定管理を継続したことで環境目標を31.61%削減した。
- ・ 主に風呂を沸かすため使用しているLPGガスについては、2つある浴槽(大・小)を上手に活用したことで、環境目標を10.34%改善した。
- ・ ガソリンについては、人員が増えたことで作業エリアが増え、作業量も増えた。そのことから車両に乗る機会が増え、ガソリン使用量が93.69%増加した。  
また、軽油についてはアイドリングストップを徹底したことで0.41%削減した。
- ・ 全体として、二酸化炭素の削減に土木工事事部全員で取り組んだが、人員が増えたことで車両に乗る機会が増え二酸化炭素排出量が2.71%増加し、環境目標を達成することができなかった。

#### (1) 電気使用量の削減

- ・ 空調温度の適正化。
  - シールにより設定温度を表示した。(冷房28℃、暖房23℃)
  - 定期的にフィルター清掃をした。
- ・ 不要電力の消費を抑制した。
  - 不必要な又は休息及び昼休み時間の電灯消灯。
  - 機器等の電源OFFの徹底。
  - 冷暖房中、各部屋の出入口を開放しないよう徹底した。
- ・ 省エネタイプのアコンを導入した。
- ・ 次期の削減量を検討した。  
※ 使用量の削減活動を行うことで、目標値を達成することができた。

#### (2) LPGガス使用量の削減

- ・ ガス機器の点検をこまめに行い、整備不良のない様にした。
- ・ 浴槽の水使用量が大きく影響するので、水量に気を配り、無駄をなくした。
  - 浴槽水位の張込みを、水深500mm前後にすることを継続した。
- ・ 温度の設定は、40～42℃の範囲とした。
- ・ 次期の削減量を検討した。  
※ 使用量の削減活動を行うことで、目標値を達成することができた。

#### (3) ガソリン使用量の削減

- ・ 始動時のアイドリングストップを実施した。
- ・ 外気温25℃以下でのアコン使用を制限した。
- ・ タイヤ空気圧を毎週月曜日に点検した。
- ・ 次期の削減量を検討した。
- ・ エコドライブの定着と低燃費車両を導入した。  
※ 人員が増えたことで車両に乗る機会が増え目標値を達成することができなかった。

#### (4) 軽油使用量の削減

- ・ 始動時のアイドリングストップを実施した。
- ・ 外気温25℃以下でのアコン使用を制限した。
- ・ タイヤ空気圧を毎週月曜日に点検した。
- ・ 次期の削減量を検討した。

#### (5) 灯油使用量の削減

- ・ 灯油使用量については、省エネタイプのアコンを導入したことでストーブを使用しなかった。

## 2. 節水

- ・ エコアクション21を数年に渡り、取り組んできたことで、全社員の節水活動が定着してきた。
- ・ 一人あたりの使用量×延人で設定しているが人が増えたことで目標値を達成することができなかった。

### (1) 節水活動

- ・ 節水活動を推進した。
  - 浴槽の水位の張り込みを、水深500mm前後に継続した。
- ・ 次期の削減量を検討した。

## 3. 産業廃棄物の排出量を削減

- ・ 当社のおける廃棄物排出は、バキューム吸引ホース(廃プラ)であります。吸引ホースの傷や穴をテープ等で養生をすることで寿命を延ばし、廃棄物排出量の削減に努めたことで、ホース購入量削減目標を達成できた。

※ 平成24年度から、環境目標の産業廃棄物排出量削減をホース購入量削減とし、廃プラスチック置き場が満杯になるまで、分別収集している。

### (1) 産業廃棄物の削減

- ・ 吸引ホースの倉庫管理を徹底した。
  - 破損状態により、養生を行い再利用した。
- ・ 次期の購入量削減を検討した。

## 8. 次年度の取組内容

5項に示した今年度の主な環境活動計画を継続実施する。

- |  |   |
|--|---|
| <p>① 本社・建築工事事部・営繕工事事部</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 二酸化炭素排出量の削減</li><li>2. 節水についての活動</li><li>3. 産業廃棄物の排出量削減</li><li>4. グリーン購入適合商品の購入</li><li>5. 自然エネルギーの利用、普及</li><li>6. 環境保全活動への参加</li><li>7. 環境教育・訓練の実施</li></ol> | <p>② 土木工事事部</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 二酸化炭素排出量の削減</li><li>2. 節水</li><li>3. 産業廃棄物の排出量削減</li></ol> |
|--|---|

※ 取組内容の詳細は、5項を参照下さい。

## 9. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社の事業に係る、環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、本社・建築工事事部・営繕工事事部及び、土木工事事部において、過去3年違反はありません。

また、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟や苦情もありません。



## 10. 代表者による全体評価と見直しの結果

平成28年度も、『エコアクション21』の運用にあたり、社員一丸となって「もったいない」を合い言葉に、環境負荷を減らすと共に、限りあるエネルギーの効率的な消費にチャレンジした。

平成28年度途中で、工事を「建築工事部」及び「営繕工事部」に、構内作業・土木部を「土木工事部」に、名称を変更したが、業務内容に変更は生じていない。引き続き、他社の模範となるような『エコアクション21』となるよう努力していく所存です。

部門別では、本社・建築工事部・営繕工事部で、全ての項目で、目標を達成することができた。二酸化炭素排出量削減については、引き続き、太陽光発電による環境に優しい発電が、二酸化炭素削減に顕著に貢献すると共に、自動車の燃費についても、ハイブリットカーの増加や、古い車両の買い替え更新、また、エコドライブにより、確実に数値が良くなってきている。

土木工事部については、若干人員が増えたことで、二酸化炭素排出量削減について達成できなかった。また、同様に、節水についても、人員が増えた事で、お風呂等水を使う機会が増えたことにより、目標を達成する事ができなかった。しかし、『エコアクション21』に取り組む意識は高く、試行錯誤しながら、継続を続けている。

『エコアクション21』北九州事務局より、マニュアルの改訂、及び電力の二酸化炭素排出に関わる係数も変更される予定があるとお聞きしており、その際は、改めて目標値を含め、見直す機会としたい。また、景気変動により、地場の建設業界は、厳しい経営環境が続いているが、引き続き、地道に『エコアクション21』活動を展開する所存である。

# 11. 産業廃棄物収集運搬業に関する情報公開

## ① 産業廃棄物収集運搬業の許可

### 【福岡県】 平成28年3月 優良業者として認定

許可種類	産業廃棄物収集運搬業許可
許可番号	04000031966号
許可年月日	平成28年3月19日
許可有効年月日	平成35年3月18日
事業の範囲	積替え・保管を行わない 廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず等(以上3品目については、自動車等破砕物を除く。)、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、木くず、がれき類(廃プラスチック類、木くず、ガラスくず等、がれき類については石綿含有産業廃棄物を含む。) 以上9品目
積替え又は保管	なし

### 【北九州市】 平成24年4月 優良業者として認定

許可種類	特別管理産業廃棄物収集運搬業許可
許可番号	07650031966号
許可年月日	平成22年7月28日
許可有効年月日	平成29年7月27日
事業の範囲	積替え又は保管を含まない 廃酸 (水素イオン濃度指数2.0以下のもの、又は水銀又はその化合物、カドミウム又はその化合物、鉛又はその化合物、六価クロム化合物、砒素又はその化合物若しくはシアン化合物を含むことのみにより有害なものに限る。) 廃アルカリ (水素イオン濃度指数12.5以上のもの、又は水銀又はその化合物、カドミウム又はその化合物、鉛又はその化合物、六価クロム化合物、砒素又はその化合物若しくはシアン化合物を含むことのみにより有害なものに限る。)
積替え又は保管	なし

### 【大分県】

許可種類	産業廃棄物収集運搬業許可
許可番号	04408031966号
許可年月日	平成26年4月13日
許可有効年月日	平成31年4月12日
事業の範囲	収集運搬(積替・保管行為を含まない) 汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、木くず、金属くず(鉛製の管又は板であって不要物であるものを含む)、ガラスくず等(廃石膏ボードを含む)、がれき類(以上9種類。ただし、石綿含有産業廃棄物であるものを含み、上記以外の非安定型産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物であるものを除く。)
積替え又は保管	積替・保管行為を含まない

※ 上記内容につきましては、許可証と同じ表記としております。

## ② 収集運搬車輛

収集運搬車輛の種類と台数（平成29年3月現在）

10t 清掃車	1台	5t 清掃車	2台
9t 清掃車	1台	キャブオーバ (4t ユニック車)	3台
8t 清掃車	3台	ダンプ(3.65t)	1台
7t 清掃車	1台		
6t 清掃車	2台		



清掃車



(強力)清掃車

## ③ 産業廃棄物収集運搬料金

収集運搬料金につきましては、産業廃棄物の種類、量、運搬方法、運搬距離等により計算いたします。当社構内作業部までお問い合わせ下さい。無料にてお見積もりいたします。

④ 産業廃棄物収集運搬実績

〈産業廃棄物〉

(単位:t)

産業 廃棄物 種類	運搬方法	処理実績(年/月)												合計
		H28/4	/5	/6	/7	/8	/9	/10	/11	/12	H29/1	/2	/3	
廃油	受入量	124.09	148.19	344.04	219.95	161.09	82.71	244.00	317.00	273.09	362.83	250.16	163.94	2,691.09
	運搬量 清掃車	124.09	148.19	344.04	219.95	161.09	82.71	244.00	317.00	273.09	362.83	250.16	163.94	2,691.09
廃 アルカリ	受入量	222.67	203.95	246.55	332.74	365.32	347.03	371.78	269.96	300.90	209.17	197.30	232.29	3,299.66
	運搬量 清掃車	222.67	203.95	246.55	332.74	365.32	347.03	371.78	269.96	300.90	209.17	197.30	232.29	3,299.66
汚泥	受入量	212.35	100.13	70.59	121.84	109.33	18.48	16.65	9.37	5.00	32.68	24.62	132.09	853.13
	運搬量 清掃車	212.35	100.13	70.59	121.84	109.33	18.48	16.65	9.37	5.00	32.68	24.62	132.09	853.13
廃酸	受入量	28.57	37.90	51.67	68.93	23.77	41.20	34.51	22.28	41.03	27.46	38.70	24.74	440.76
	運搬量 清掃車	28.57	37.90	51.67	68.93	23.77	41.20	34.51	22.28	41.03	27.46	38.70	24.74	440.76
廃 プラスチック類	受入量	0.00	0.08	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08
	運搬量 キャブ オーバ	0.00	0.08	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08
ガラス屑 陶磁器屑 コンクリート屑	受入量	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	運搬量 清掃車	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
木屑	受入量	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	運搬量 キャブ オーバ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
金属屑	受入量	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	運搬量 キャブ オーバ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
がれき類	受入量	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.36	0.00	14.82	3.14	22.32
	運搬量 キャブ オーバ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.36	0.00	14.82	3.14	22.32
	合計	587.68	490.25	712.85	743.46	659.51	489.42	666.94	618.61	624.38	632.14	525.60	556.20	7,307.04

〈特別管理産業廃棄物〉

(単位:t)

産業 廃棄物 種類	運搬方法	処理実績(年/月)												合計
		H28/4	/5	/6	/7	/8	/9	/10	/11	/12	H29/1	/2	/3	
廃 アルカリ	受入量													
	運搬量 清掃車													
廃酸	受入量													
	運搬量 清掃車													
	合計													実績無し

## 12. 資料 環境保全活動参加(写真)



場所: 八幡東区松尾町(会社周辺道路)  
内容: 地域清掃活動(ボランティア活動)  
活動日: 平成28年6月6日



場所: 八幡東区松尾町(会社周辺道路)  
内容: 地域清掃活動(ボランティア活動)  
活動日: 平成28年8月1日



場所: 八幡東区松尾町(会社周辺道路)  
内容: 地域清掃活動(ボランティア活動)  
活動日: 平成29年3月6日

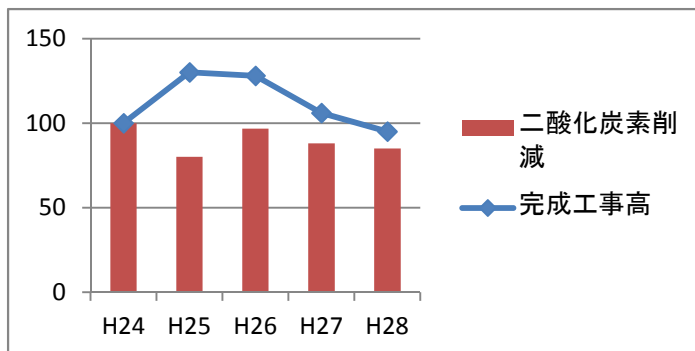
# 13. 資料 最近5ヶ年の動向(グラフ)

## ① 本社・工事部

### 1. 二酸化炭素排出量の削減

	H24	H25	H26	H27	H28
完成工事高	100	130	128	106	95
二酸化炭素削減	100	80	97	88	85

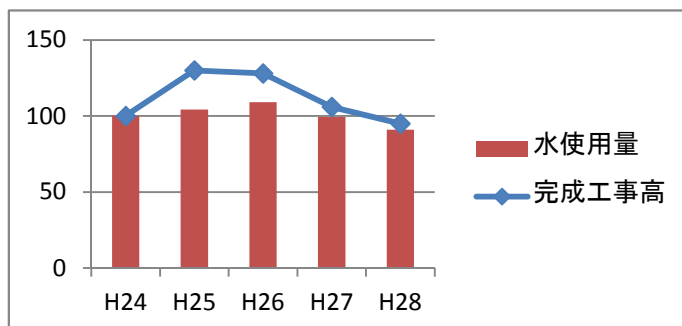
平成24年度を100とした場合の指数



### 2. 節水

	H24	H25	H26	H27	H28
完成工事高	100	130	128	106	95
水使用量	100	104	109	99	91

平成24年度を100とした場合の指数

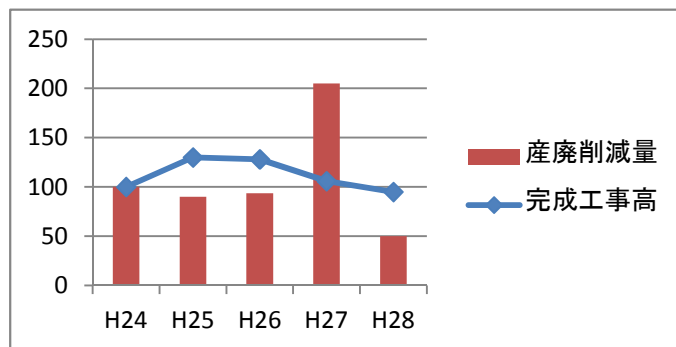


### 3. 産業廃棄物排出量削減

	H24	H25	H26	H27	H28
完成工事高	100	130	128	106	95
産廃削減量	100	90	94	205	50

平成24年度を100とした場合の指数

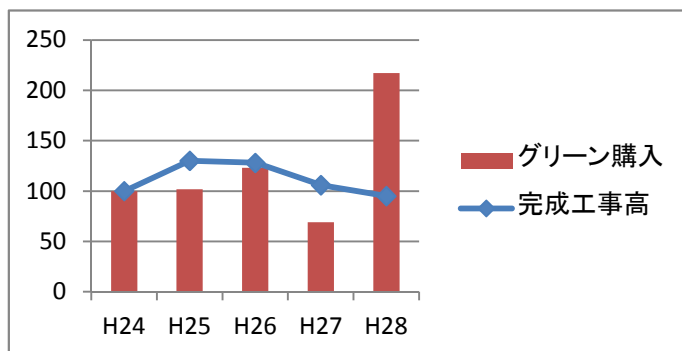
※ 平成27年度に、工事部において、S社発注の大型浄水場解体工事を施工し、多くの産廃が排出されたため、目標を達成する事が出来なかった。



### 4. グリーン購入量

	H24	H25	H26	H27	H28
完成工事高	100	130	128	106	95
グリーン購入	100	102	123	69	217

平成24年度を100とした場合の指数

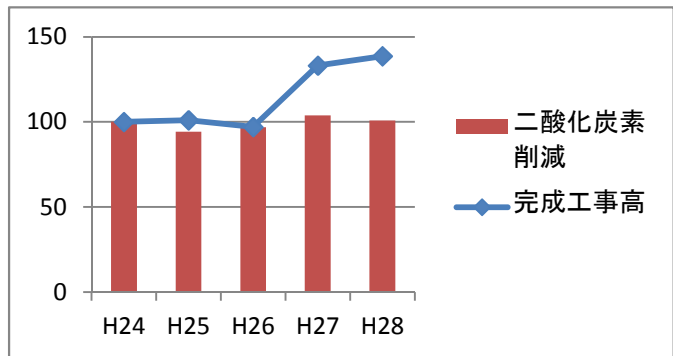


② 土木工事部

1. 二酸化炭素排出量の削減

	H24	H25	H26	H27	H28
完成工事高	100	101	97	133	139
二酸化炭素削減	100	94	97	104	101

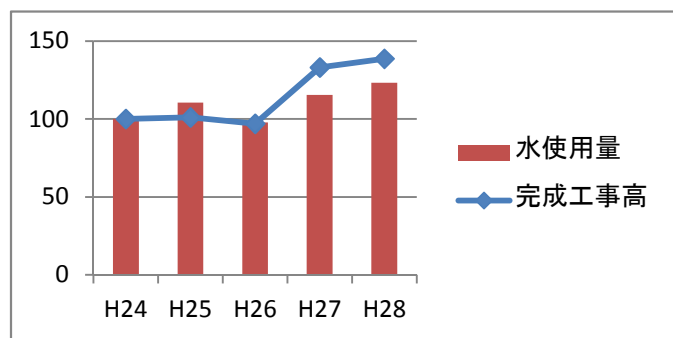
平成24年度を100とした場合の指数



2. 節水

	H24	H25	H26	H27	H28
完成工事高	100	101	97	133	139
水使用量	100	110	98	116	123

平成24年度を100とした場合の指数



3. 産業廃棄物排出量削減

	H24	H25	H26	H27	H28
完成工事高	100	101	97	133	139
産廃削減量	100	149	68	93	69

平成24年度を100とした場合の指数

